



## 特集 旭町キャンパス137年の歩み

新

新潟大学の旭町・西大畑キャンパスは、明治初期まで、砂丘と松林で覆われていました。この地に最初の高等教育の灯が点されたのは1873(明治6)年です。新潟病院が現在の医学町に建設され、医学生の育成を担いました。2年後には、官立新潟英語学校と官立新潟師範学校が現在の歯学部の敷地に建設されました。以来、高等教育のための施設が次々と建設され、県内の最高学府が形成されました。1949(昭和24)年、新潟大学が発足し、大勢の若者による活気と賑わいを呈しました。いくつかの学部が五十嵐地区に統合移転した平成初期からは、メディカルキャンパスとして、静かな発展を続けています。

本特集では、新潟市の街づくりや市民生活に深く関与した旭町キャンパス137年の形成過程を、地元の期待や支援内容に焦点を当てて、振り返りました。そこで見えてくるものに、高等教育、研究機関あるいは地域医療の拠点としての新潟大学に対する

関係者の意識の変化があります。国と地方、社会と個人、在学者と卒業生など、負担の在り方に対する認識も、大きく変化しています。

新潟大学は今後どうあるべきか。同窓生はどのように支援すべきか。歴史を振り返りつつ、長期的な視点で、地域とともに、対応したいものです。

### 旭町キャンパス歴史的記念物

- 1 官立新潟医学専門学校煉瓦塀(明治44年)、正門(大正3年)、クロ松
- 2 池原康造官立新潟医学専門学校校長胸像(大正6年、昭和29年復元)
- 3 新潟師範記念館(昭和4年)(本紙6号にて特集)
- 4 医学部有壬記念館(昭和60年)
- 5 歯学部桜植樹(昭和48年) 国道拡幅に伴い移植(平成17年)
- は国の登録有形文化財





# 明治から大正にかけて

**明** 治新政府は、新潟の開港に伴い英語力を重視し、また、明治5年の「学制」の施行に基づき、明治8年に、巨費を投じ、官立新潟英語学校と官立新潟師範学校の洋風の校舎(下図オレンジ部分)を建設し、教育を開始しました。明治10年に、政府の方針変更に伴い、両校は廃校。しかし、施設や生徒は県立新潟学校に引き継がれ、旭町地区に高等教育が根付く嚆矢となりました。当時の新潟町の人口は3万人余り。学校の北側から海岸までは砂丘と松林のみで、付近には、練兵所(陸軍の演習場)がありました。因みに、この土地は砂地ではありません。練兵所建設のため、信濃川上流から運び入れた土といわれています。



**左図** 明治8年測量の「新潟港実測図」より一部改変。オレンジ改変部分は官立英語学校と師範学校。ピンク改変部分の新潟病院(明治9年に町から県に移管)は、明治21年県の財政難と政府方針により、医学学校機能が廃止(校)され、病院機能のみが新潟区に引き継がれました。明治22年の市制施行に伴い、市立新潟病院と改称。明治23年から、池原康造(後に官立新潟医学専門学校(現新潟大学)の初代校長)が院長を務めました。挿入写真上は官立英語学校(左)と師範学校(右)(明治8年)。写真下は新潟病院(明治11年に改築する前の撮影)



蒲原 宏

日本医史学会前理事長  
新潟医大医学専門部  
昭和19年卒

## 新潟の近代西洋医学は医学町で発展した

医学教育の近代化を旨とし、明治6年7月10日、横三番町に私立新潟病院が仮設され、11月21日に医学町に新築移転した。フランス人医学教師ヴィダルが教育にあたった。9年に県立新潟病院、10年に県立新潟病院医学所と改稱、11年改築、翌月明治帝の行幸があった。12年に県立新潟中学校となり病院はその附属となった。その間オランダ人医学教師ヘーデン、フォック、ホルテルマン等が教育にあたった。14年に産婆教場、16年に薬学校が併設され、県内の医療・医事衛生教育の拠点であったが、勅令48号による賤政制度の変革により、21年3月31日に全て廢校。4月19日、新潟区が診療を引き継ぎ、22年の市制施行で市立新潟病院と改稱、官立新潟医学専門学校設立まで存在した。

明治23年、県立尋常師範学校(旧県立新潟学校)は火災により校舎を失い、前述の練兵所跡地(右図のオレンジ部分)に新たな校舎を建設し、明治26年に移転しました。当時の新潟県の人口は171万人。東京都より多く、日本で最も人口の多い県で、それなりの財政力がありました。



池原康造校長と医専一期生(大正2年頃)。人望つとに厚く、逝去後に胸像が建てられました。



**右図**

明治32年「新潟市実測図」より一部改変。ピンクの新潟病院は、新潟市の医療の中核でした。明治14年に比べ、付近が急速に市街地化しつつあるのが読み取れます。オレンジの尋常師範学校は、現在の医学部保健学科の敷地に相当します。その南東には、招魂社(後の護国神社)が、その東には新潟県庁がありました。尋常師範学校が移転後の跡地には、新潟市立商業学校(明治36年に県立商業学校)が建設され、官立医学専門学校の誘致に伴い明治44年に移転するまで、同地に留まりました。挿入写真は県立尋常師範学校(明治26年)。



「新潟交友」(明治40年)。医専誘致に伴う新潟市の財政負担の厳しさを風刺した漫画。



## ◆明治43年 官立新潟医学専門学校が設立

明治36年に政府が「専門学校令」を公布すると、世論は官立医学専門学校の誘致に動き、新潟市は民有地677坪のほか市有保安林など7000坪を県に寄付。県はこれとあわせ合計17,100坪を国に寄付。市は、附属病院として、市立新潟病院の施設や敷地も貸与(設備は寄付)しました。(左図ピンク部分)更に、県と市は、施設の建設費用の全てを賄える資金も国に寄付しました。市は県の約半分を負担。県や市を「公」と表現すれば、「公設国営」と言えるでしょう。医専の誘致に要した費用は、新潟市の分だけでも、市の経常歳出の一年分をはるかに超える額に及び、当時6万人余りの新潟市民に大きな負担を強い、昭和初期の財政危機の一因になりました。しかし、同校は、地域医療、医学教育の中心として、市民の期待に十分に答えました。

**左図** 新潟市築港設計図(大正初期)より一部改変。医専の敷地をピンクで表示。下方のグラウンド部分は、大正3年に県から医専に移譲。オレンジの県立師範学校の北西付近は、新潟市の最も標高のある土地ですが、水道配水地(現在の日本海タワー、南山配水場)ができ、都市機能が整備されつつあります。挿入写真は医専の本館正面(大正3年)。昭和50年に本館は取り壊されましたが、その他は現存。平成17年に国の登録有形文化財に指定されています。

## ◆大正8年 官立新潟高等学校が設立

大正5年に政府が高等学校の増設を決めたことを受け、新潟市は市有地2686坪を含め敷地(下図の薄紫部分)の全部にあたる2万47坪や多額の建設費を国に寄付。県もそれに倍する寄付をし、医専の時と同様、「公設国営」での官立高等学校の誘致を果しました。大正11年に新校舎が竣工。新潟県内からも多数の入学者があり、地域の高等教育に大きく貢献し、旭町地区に新しい文化の拠点が加わりました。官立新潟高等学校は、昭和24年に発足する理学部や人文学部の母体です。

大正11年「新潟医科大学一覧」より一部改変。右上の「大学用地」とある部分(黄緑表示)は、大正10年に県から寄付を受けました。間の道路部分はその後敷地化。更に、西側の黄緑の大部分が、医大昇格のため新潟市と新潟県から寄付され、順次、校舎が増設されました。



## ◆大正11年 官立新潟医科大学に昇格

大正7年に政府が「大学令」で帝国大学以外の大学の増設を決めたことを受け、新潟県と新潟市は、拡張のための用地として最終的に1万3,564坪余り(上図の黄緑の大部分)を買収し、国に寄付。建物の建築費用も寄付。これを受けて、大正11年に、新潟医専は他校に先駆けて医科大学への昇格を果たすことができました。この時も公設国営での昇格といえます。敷地の寄付は大正13年まで続きました。新潟市の財政規模も大きくなりましたが、それでも年間歳出額の約20%に相当する資金を昇格のために負担しました。

**左図** 昭和5年「新潟市図」より一部改変。高等学校(薄紫部分)と師範学校(オレンジ部分)の敷地は、それぞれ現在の附属学校と医学部保健学科の敷地に相当します。旧新潟病院の敷地(上図の薄紫部分)は、昭和4年に新潟市に返還。昭和13年に、医大は西側の1,236坪(赤破線囲み部分)をキリスト教団体から購入。同団体から建物と、財協和会から改修費用の寄付を受け、学生や職員のための有壬会館として活用しました。挿入写真は新潟高等学校(大正期)。

## 医学運動会に見る旭町キャンパスと新潟市民との交流



大正10年頃の医学運動会。数千人の市民や患者が、グラウンドを取り囲み、教授らが繰り広げる仮装の出し物に見入っている。当時の新潟市の人口は約9万、周辺の町村から著しい人口流入がみられました。昭和46年まで、医学生はこの病院前のグラウンドを課外活動でも活用しました。現在、歯学部の校舎が建っています。



栗山 君枝

新潟大学医学部附属病院・  
元看護婦長  
新潟医科大学附属厚生女学部  
昭和23年卒

### 大学病院と新潟市民を つなぐもの

## 第二次大戦後の

## 旭町キャンパス形成の歩み

**昭**和24(1949)年、官立新潟医科大学を始めとする各学校が母体となり新潟大学が発足しました。官立新潟高等学校の校舎に理学部が入り、グラウンドに新たに建設した木造校舎に人文学部が入りました。教育学部は県立師範学校の施設を受け継ぎ、寄宿舎などを改造し、対応しました。新潟県は、県立学校の移管の他にも、招魂社跡地を国から購入し、大学本部を建設した上で、改めて国に寄付をしました。新潟県は、新潟大学開設のための費用の大部分を負担し、その後も数年間寄付を続けました。公設国営が続いたのです。

### 卒業生と地域の支援により 新築なった附属病院外来棟(昭和31年)

昭和26年、医学部附属病院の木造外来棟が火災のため全焼。これに対して、医学部学生会が中心になり、地元メディアも「県民の大学を復興せよ」と呼びかけ、一般市民も寄付に応じました。新潟市や新潟県や県内市町村も多額の寄付に応じ、これを受けて、国が残りの費用を負担し、昭和31年に、現在の鉄筋コンクリート造りの外来棟が完成しました。漸く、国が直接的に地方国立大学の建設資金を負担し始めたという意味で、ひとつの転換期といえるでしょう。日本は高度成長の時代を迎えようとしていました。



外来棟及び後方の図書館を除き、キャンパスの大部分が明治・大正以来の木造建築でした。(昭和31年)



武藤 輝一

新潟大学元学長  
新潟医科大学 昭和29年卒

### 新潟医科大学病院外来診療棟の火災・ 再建と現在の新潟大学病院の新築

私は官立新潟医科大学の最後の卒業生です。昭和26年11月、医大病院外来診療棟が全焼しました。すぐ、医学士会が主導し、復興協議会ができ、地元で再建費用の1/4(県・市・市町村で70%、市民寄付で10%、医学士会ほか、医大職員・病院職員・学生・看護婦等及び医師会の寄付で20%)を集め得た結果、国から残り3/4を支出いただき、昭和29年末に新外来棟が完工しました。国から再建費を頂くため、中山栄之助病院長はじめ数名の教授の方々が、学生代表として1学年上の渋谷昭徳氏と私を従えて、上京。文部省と県選出の国会議員に再建を陳情しました。現在の大学病院新病棟第1期工事は、私が学長の最終年(平成9年度)に国から予算をつけていただきました。新病棟第2期工事、新中央診療棟工事が終わり、現在、新外来診療棟の新築工事が始まり、時代の流れに感慨深いものがあります。

### 卒業生の篤志寄付は続く

助協和会は、昭和26年に学校町に職員宿舍用の土地と建物を購入し寄付するなど、度々、大学に寄付をしました。

医学部学生会は、昭和60年に創立75周年を記念し、有壬記念館を現在地に建設し、大学に寄付しました。様々な催しに活用されています。今年、医学部は、医専開設後100周年を迎えます。

もしも…

新潟大学が  
旭町地区で  
整備統合されて  
いたなら？

仮装の計画立案は全て卒業したての一年生医師と看護婦の担当でした。準備に時間をかけ、産婦人科では鈴木教授が西郷隆盛、講師がお宮に扮し、私は黒マントに学生帽でした。立場の分け隔てなく、全員が一体となり、仮装を盛り上げました。外科は黒んぼの裸踊りでした。入院中の患者、職員の家族、住民の参加もありました。笑いや熱のこもった応援で満ちあふれた運動会は、夜の慰労会、更には、大学の垣根を越え、市民との語らいで締め括られました。在職中、私はお産のお世話をしましたが、地域に密着した大学病院であったと思います。大学関係者と一緒に運動会を楽しむ市民の存在は、その表れでした。これからも惜しみなく、大学の叡智を地域に提供していただくこと願ってやみません。

1960年代に、旭町地区の整備や蛸足状態にあった学部統合問題が議論されるや、県内各市が受入れ候補地に名乗りを上げ、折しも大学紛争の時期に重なったことで、多いに紛糾しました。最終的に、理・教育・人文学部と教養部が五十嵐地区に移り、その移転費用は全て国費で賄われました。社会状況は、地域が出資する大学という意識も変えつつありました。

旭町地区での整備統合は、様々な理由で、早々に検討の対象外とされ、当時の各種公共施設の郊外移転の風潮のなかで、移転がもたらす中心市街地への影響や学生への影響が議論された形跡は殆どありませんでした。多くの学生が郊外に去った1982年以降の旭町地区は、医科系学生だけの静かなキャンパスになり、古町界限にも若者の声が少なくなりました。教職員学生あわせて1万人を超える総合大学がもたらす様々な波及効果も郊外移転してしまっていたのかもしれない。

現在の旭町メディカルキャンパスや中心市街は137年の歴史を経た現実の姿です。しかし、文化を期待し、最高学府を誘致した明治大正時代のように、もし、新潟大学の整備統合が旭町地区周辺で実現していたなら、旭町キャンパスや新潟市の中心街の現在の様子はどのようだったのでしょうか。「歴史にもしもはない」とは言い尽くされた言葉ですが、想像してみるのも楽しいものです。大学の都心回帰が現象化する中で、それは、これからの新潟大学や新潟市の在り方にも関係することでしょう。



歯学部の桜の木は残った

野村 修一

新潟大学大学院医歯学総合研究科・  
包括歯科補綴学分野教授  
歯学部 昭和48年卒

「歯学部の桜」は、新潟市で最も早く開花する桜として、多くの市民の皆様へ愛されてきました。また、歯学部同窓生にとっては、胸躍る入学を祝ってくれているかのように満開となる桜はマスコットのような存在でもあります。不思議なことに、この桜がいつ植えられたかはあまり知られていません。昭和48年に現在の位置に歯学部と建物が完成した折に、学校町通りに面した石垣の上に空き地があり、子供達が遊んで落ちたりしては危険と桜とつつじの苗木が植えられたと、石岡靖名誉教授から伺いました。何本かの苗木は抜き取られてしまったものの、県庁(現市役所)前の4本は残って、その後立派な大木に成長しました。平成17年に4本の桜木は学校町側に移植されましたが、これまでと変わらない見事な満開の花を楽しむことができます。



左図

歯学部脇にある桜は、新潟市で最も早く開花する桜として市民に親しまれています。国道の拡張工事に伴い、平成17年に移植されましたが、元々は、昭和48年に植樹されたものです。

謝辞

新潟大神宮、新潟市歴史文化課、新潟市歴史博物館、新潟市立図書館、新潟県立図書館、新潟大学財務部による資料提供に感謝します。  
【出典】新潟大学25周年史、新潟大学医学部50年史、同75周年史、新潟医学専門学校一覽、新潟医科大学一覽、新潟医科大学台帳、新潟大学一覽、新潟大学文書、新潟市役所文書、新潟市史通史編、同資料編、新潟歴史双書、学生会会報、新潟医専卒業アルバム、新潟大学全学同窓会HP 全学同窓会写真館



NIIGATA DIAMOND ELECTRONIC



事業内容

1. 電子機器の製造・販売
2. 冷暖房器具、浴用機器の製造・販売
3. 家庭用電気機械器具の製造・販売
4. 産業機械機器の製造・販売
5. 車載電子製品の製造・販売

ホームエレクトロニクスの未来、そして優れた生産性が築かれる場所

新潟ダイヤモンド電子株式会社

〒959-0261 新潟県燕市吉田鴻巣65-4  
TEL:0256-92-5101 FAX:0256-92-7657

<http://www.n-diaelec.co.jp>



設計から製造まで一貫生産

Live with the earth

**CORONA**

世界初である  
という責任。

2001年、世界で初めて  
家庭用エコキュートを発売して以来  
業界のパイオニアとして  
さらなる高効率・高品質を実現するため  
新しい技術開発に挑戦しています。

※2001年4月、世界で初めて家庭用CO2ヒートポンプ給湯機「エコキュート」を発売。

エコキュートはコロナ

ホームページでもカタログのご請求ができます。 <http://www.corona.co.jp/>

株式会社 **コロナ**  
本社 / 〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7 ☎0256(32)2111(代)



# 創立60周年記念事業

新潟大学は、新制国立大学発足から60年を迎えました。  
新潟大学と新潟大学全学同窓会は、創立60周年を記念して、  
創立60周年記念式典・講演会・祝賀会等の主催行事を挙げてまいりました。  
そのいくつかをご紹介します。

## 記念式典・講演会・祝賀会

### ●●創立60周年記念式典

平成21年10月18日(日)に新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟において、創立60周年記念式典を行いました。文部科学省課長(文部科学大臣代理)、新潟県知事、新潟市長をはじめ、多数の国公私立大学長、交流協定を締結している海外11カ国15大学の学長等45人、国会議員、大学関係者、本学同窓生等、総勢約550人の列席がありました。下條文芸学長は「創立60周年の節目に立ち、新潟大学の未来に向け、さらなる一步を、志を高く掲げ邁進してまいりたい」との式辞を述べられました。



式辞を述べる下條学長

### ●●創立60周年記念講演会

式典に続いて行われた記念講演会には、2008年ノーベル物理学賞を受賞された益川敏英博士をお招きしました。「科学と自由～私の研学生活から～」と題する講演では、科学が社会で果たしてきた役割とその重要性などがユーモアを交えながら語られ、一般市民を含む800人を超える聴衆が熱心に耳を傾けていました。



ユーモアたっぷりの益川先生の講演

### ●●創立60周年記念祝賀会

引き続き行われた祝賀会では出席者全員で創立60周年を盛大にお祝い致しました。下條学長の挨拶で始まり、その後、卒業生である齋藤康千葉大学長及び内田力全学同窓会会長から祝辞が述べられました。続いて、来賓者による鏡開きがあり、長谷川彰前学長の発声による乾杯が行われました。祝賀会は、本学の吹奏楽部による演奏で花が添えられるとともに、歴代学長である長崎明氏、武藤輝一氏、荒川正昭氏から、在任中の思い出話や今後の新潟大学に寄せる



期待等が熱く語られ、盛会のうちに御開きとなりました。

学長、同窓会長及び来賓らによる鏡開き

### ●●ホームカミングデー

平成21年10月18日の午前中には五十嵐キャンパス、旭町キャンパスにおいて、卒業生による第1回ホームカミングデーが行われました。ホームカミングデーは、同窓生がキャンパスを訪れ、在校生や大学関係者と旧交を温める企画です。各学部がそれぞれ特長のある催しを企画しました。在校生とのふれ合い・意見交換、キャンパスツアー、大学祭の見学、60年を振り返るパネル展示等に約300人の同窓生らが参加し、自身の学生時代を懐かしんでおられました。



昔のキャンパスの写真を展示(教育学部)

### ●●新潟大学デー

12月19日(土)を「新潟大学デー」と称して、主に首都圏在住の同窓生の皆さんを国立科学博物館に招待し、大学サイエンスフェスタ見学会・講演会・懇親会を開催しました。同館講堂で開催された講演会では、山階鳥類研究所所長・新潟大学超域朱鷺プロジェクトリーダーである山岸哲先生から「トキの野生復帰から私たちは何を学んだらよいか」と題する講演が行われました。引き続き行われた懇親会には、同窓生を中心に約120人の参加がありました。



トキの特徴や生態系保全について語る山岸先生

## 財団法人 協和会

当法人は、医学の研究等奨励助成するとともに  
新潟大学医歯学総合病院の患者様や職員等への  
便宜を供与することを目的として、設立された法人です。



毎日の生活に欠かせないものを  
いろいろ取り揃え  
皆様のお越しをお待ちしております

売店

薬局

食堂

〒951-8520 新潟市中央区旭町通1番町754 新潟大学医歯学総合病院内  
TEL.025(228)4444

## 大学サイエンスフェスタの開催

平成21年12月11日～20日まで東京・上野の国立科学博物館で「発見！体験！先端研究@上野の山シリーズ 大学サイエンスフェスタ」が開催され、新潟大学は、「みずから学ぶ環境」と題する企画を出展いたしました。私たちに身近な「水」から環境問題を学ぶことをコンセプトとし、様々な展示や実演、実験を行いました。期間中、小中高生から、ご年配の方々まで、約14,000人ももの来場者がありました。本学が進めている「水と環境」に関する研究成果を紹介した映像やパネルをご覧になる姿や、スタッフに熱心に質問する場面も見受けられました。また、所々に設けられたトキのエサ採りや水素燃料電池ミニカー乗車などの実演・体験コーナーは小中学生の人気を集め、時折、大歓声も聞かれました。以下、本学の展示の様子をテーマ別に3つに分けられたブース毎にご紹介します。

①**水と人が育む多様な生命**：佐渡島を舞台として、山に降った水（雨や雪）とそこに暮らす人間や生きものたちとの関わりを紹介しました。

②**水に関わる災害と私たちの暮らし**：水は、洪水や雪崩、地震による液状化といった「災害」という危険な一面を持ち合わせています。それを防ぐ方法を実験等により分かり易く紹介しました。

③**水と科学技術が育む未来のエネルギー**：クリーンな次世代エネルギー源として注目されている、水素の利用技術を水素燃料電池ミニカーの体験乗車などを通じて分かり易く紹介しました。



最新研究

## 新潟大学2010 Hot Research

理学部

### 糸魚川ジオパークと地域連携

ジオパークとは「大地の公園」です。糸魚川ジオパークは、2009年8月22日に日本初の世界ジオパークに認定されました。理学部は2009年5月に糸魚川ジオパーク協議会に加盟し、ジオパークの活動を支援しています。理学部内のサイエンスミュージアムでは、糸魚川産の鉱物・化石・岩石標本や解説パネルを展示しています。あさひまち展示館では「糸魚川ジオパーク展ーヒスイ、化石、断層、見どころいっぱいー」を開催しました(2009/9/1-11/29)。駅南キャンパスの「ときめいと」では、「糸魚川ジオパーク in にいがた」(11/15)を、東京上野の国立科学博物館では、大学サイエンスフェスタの一環として「糸魚川ジオパーク in うえの」(12/12)を実施しました。世界ジオパークの認定に合わせて、このように多彩な活動を実施できたのも、フォッサマグナミュージアム(糸魚川市教育委員会)の開館(1994)以前から、関係者の交流があったからです。新潟大学と糸魚川市との間で包括連携協定が締結され、交流の輪が広がることを願ってやみません。

理学部地質科学科 松岡 篤



糸魚川の小滝ひすい溪

### 私たちが新潟大学を応援しています

(医)愛眼会、株アイメドテック、秋田組合総合病院、あさひ新潟法律事務所、株アステック、株アヅマテクノス  
ANAクラウンプラザホテル新潟、飯田特許事務所、株磯部ハイテック、株イタリア軒、株伊藤商会、株牛木組、株宇都宮製作所  
エアブラック株、株エスエフシー新潟、NSG教育研究会、株遠藤製作所、株オリス、キャノンイメージングシステムズ株、(財)協和会  
株栗山米菓、株グランマーレ、グリーン産業株、株グローバルネットコア、株考古堂書店、株コロナ、近野茂公認会計士事務所  
佐藤食品工業株、(医)沢矯正歯科医院、株サンケイ情報ファシリティ、三興建設株、株サンライズヴィラ、株サンライフ舞、JA新潟厚生連  
株ジェイマックソフト、新発田建設株、下都賀総合病院、新富工業株、(有)信成科学、進展工業株、信楽園病院、スズキ商事株  
株スタジオ嶋田、諏訪湖畔病院、株ソーゴ、相互技術株、第四銀行、高口経理事務所、高田西城病院、高橋整形外科、田辺建設株、中越運送株  
株中央グループ、燕商工会議所、有限責任監査法人トーマツ、株東陽理化学研究所、株トップカルチャー、トップ工業株  
公認会計士 富岡清嗣事務所、内外化学製品株、中条中央病院、中田会計事務所、鍋林フジサイエンス株、株新潟科学、新潟県信用組合  
新潟サンセルフ、新潟信用金庫、新潟総合警備保障株、新潟大学生生活協同組合、新潟ダイヤモンド電子株、新潟中央青果株  
新潟日産自動車株、新潟脳外科病院、新潟メスキュード株、日東アリマン株、株パイオニア、株博進堂、株畠山種苗園、株ヒウラ  
光タクシー(有)、株廣瀬、新潟税理士法人深滝合同事務所、株福田組、富士フィルムメディカル株、藤巻元雄法律事務所、北越紀州製紙株  
株細貝建築事務所、三国コカ・コーラボトリング株、三井物産株、株メディス、八洲設備工業株、ヤマトロジスティクス株  
株リンコーコーポレーション

協賛企業93社 (平成22年3月末現在)

## 新潟大学からのお知らせ

### 五十嵐キャンパス正門廻りを整備

新潟大学では、魅力的な教育研究環境の創造を目指してキャンパス整備を進めています。その基本である「安全・安心なキャンパス環境」の実現のため、五十嵐キャンパスにおいては、正門周辺を整備することになりました。新たに歩行者専用の通用門を設けることにより、明確な歩行者・自動車の動線分離を図り、歩行者優先キャンパスであることを印象づけるデザインとなっています。このデザインの決定については、公募が行われ、多くの応募の中から、本学院自然科学研究科の学生の提案したデザインが選ばれました。この新潟大学への新たな入り口がランドマークとなることが期待されています。なお、写真の「新潟大学」銘板は全学同窓会の寄贈によるもので、側面に全学同窓会寄贈をうたったプレートが埋め込まれています。



全学同窓会より寄贈された大学銘板と下條学長、全学同窓会の齋藤副会長、柳本理事ら

### 医歯学総合病院の整備

平成21年9月に、医歯学総合病院の新しい診療棟として、中央診療棟が完成しました。この新中央診療棟には、手術部門、放射線部門、滅菌材料部門が設置され、MRIやCTなど最先端の設備が整備されています。また、全国では23番目、日本海側では初めての高度救命救急センターとして新潟県から認可された高次救命災害治療センターが新設されました。病院では、現在、新しい外来棟の建設が進められており、平成24年10月に開院する予定となっております。



テープカットを行う下條学長、泉田知事、畠山病院長ら

## 新潟大学全学同窓会からのお知らせ

### 全学同窓会年次支援事業（平成21年度）

平成20年度から、賛助会費をもとに、公募型の学生および大学支援を実施しています。21年度は、審査の結果、以下の7件の事業に対して、合計200万円の支援をしました。

#### ●新潟大学ラグビーフットボール部

「ラグビーを通じた大学生としての自己啓発、特に心身の鍛錬」

学生の部員は40名余り。学業の合間に、競技を通じて、自らの心身を鍛えるだけでなく、社会生活に必要な様々なことを学んでいます。全国大会で着用する試合着を更新し、念願の全国大会の制覇に繋がりたい。



赤の試合着を新調。平成22年1月の全国大会で準優勝しました。

#### ●新潟大学学生フォーミュラプロジェクト

「第8回全日本学生フォーミュラ大会(2010年度開催)に向けたフォーミュラマシン製作」

#### ●新大室内合唱団

「全日本合唱コンクール出場に向けた合宿の強化」

#### ●にいがた環境プロジェクトROLE

「リサイクル容器の回収・普及」

リサイクル容器の回収や普及を通じて環境意識の啓蒙に努めています。今回は、新しいリサイクル弁当回収ボックスをデザインしました。新大祭でアピールすることで、新たな啓蒙に努めたいと思っています。



新大祭での回収ボックスの紹介(平成21年10月)

#### ●新潟大学医歯学図書館(旭町分館)

「医歯学図書館『闘病記文庫』の整備と卒業生等一般市民の利用促進」

#### ●新潟大学旭町学術資料展示館

「旭町学術資料展示館の展示パネル統一など展示改善」

#### ●新潟大学附属図書館(中央館)

「学生と卒業生、一般市民の憩いと情報交換の場の整備」

### 新潟大学全学同窓会写真館がスタート

新潟大学や学生生活の歴史的写真をHP上で公開しています。母体となった旧制学校等の紹介も含まれます。各学部同窓会の担当者が執筆し、卒業生の立場から、それぞれの写真に解説を加えたのが特徴です。学部同窓会、年代別の検索機能もついています。貴重写真をお持ちでしたら、積極的な提供をお願いします。【連絡先:全学同窓会事務局】



## 新潟大学全学同窓会

事務局：〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
TEL025-262-7891 FAX025-262-7892  
dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp  
http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/gr/dousoukai/

### 運営委員会広報部より

国立大学なのに、何故に、とって思っていたが、今回の特集の編集により、「地域や先輩の力で育てられた新潟大学」の言葉の意味がようやく理解できました。当時の事情を知る多くの方が故人となり、現在も貴重な資料が失われつつあります。伝統ある他大学に習い、新潟大学にも、歴史を伝える「大学文書館」の設立が望まれます。